

## 「沖縄県の子宮頸部病変における HPV 感染について」

平成27年8月13日 倫理審査承認 第832号

### 研究の概要：

本研究では琉球大学で検査や手術で摘出された子宮頸癌や子宮頸部前癌病変の病理組織標本を用いて子宮頸癌発生に関わる Human papillomavirus (HPV)について研究を行います。120種ある HPV のうち、癌発生に関わるものはハイリスク型とされています。ハイリスク型は HPV16 型や 18 型が代表的なタイプですが、その他 31, 33, 35, 52, 58 型等が知られています。これらのハイリスク型 HPV は感染当初は細胞質に存在していますが、癌化した細胞ではヒトの DNA に入り込んだ状態となります。約10年前に沖縄県の子宮頸部より検出される HPV の感染率と型別頻度が報告されています。これによれば子宮頸部前癌病変では HPV 感染率は約 76%、癌病変では約 86%と、高率に HPV が検出されている事が報告されています。さらに癌病変に注目すれば欧米では HPV16 と 18 が主要なタイプであるのに対して、沖縄県では HPV16 が 33~42% と最も多い他は HPV33, 58, 18, 52, 31 が 6~9%で推移しています。この様に沖縄県では HPV18 の感染率は欧米ほど高くなく、その他のタイプが検出される特徴がありますが、その後10年間でウイルスのタイプ別感染頻度がどのように推移したか報告がありません。さらに前述した HPV 感染時の存在様式は癌化に重要な働きをしていますが、子宮癌や子宮頸部前癌病変で検討した報告は少なく、沖縄県の症例では未だ検討が行われていません。本研究では沖縄県の子

宮頸癌と子宮頸部前癌病変の HPV の感染率、HPV のタイプ、HPV の存在様式を明らかにし、

本県の特徴を把握すると共に臨床応用の為の基礎的なデータを提供します。

研究の目的・対象・方法などは[こちら](#)から御確認いただけます。